

# 扶桑拾葉集

十四ノ下

勿

清玉				和書門
庫	文	閣	太	
			三二三四五	
三五			號	
册	架	函	類	

内閣文庫				和書
庫	文	閣	内	
			三二三四五	
二四函			號	
六架	三五册		類	

区一第



内閣文庫	
番號	和 32345
冊數	35 ( 15 )
函號	204 143

共卅五



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



圖名12

扶桑略記卷之十一

日輪

少のにありの他

中書外記のあり

愚問書話卷一

群のにと談

千井の志

古書紀

少のにあり

徳川家

周

周

周

周

周

周

扶桑拾葉集卷第十四下

目錄

山ノ紀要ノ日記

雲井此見たり

愚問賢答序

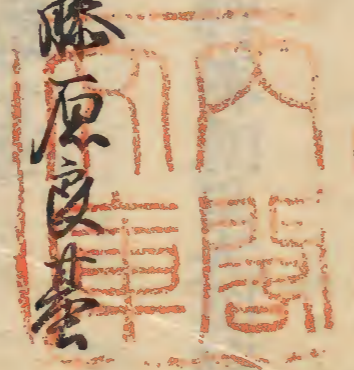
都乃此と跋

雲井ノ屯

白鷺記

山ノ紀要ノ日記

藤原良基



同

同

同

同

同

同



輝を月づくも才ありむつて林下りて  
 ちむ麻乃孫若くむとあかきとと年え  
 恨ふるりもすきかきりや此去れ世乃中  
 乃人あかくもつて人よ着えとさびかり  
 しふふ有るくは此のそとをたを歎かゆ  
 し。麻乃取れと道大治りちらあひ又目し鼻し  
 ふう頭六条殿乃をとりといひをよめをふ  
 く取しやとち事。織よ不思深なりしや  
 人方神乃所いし人なりそとむ事しと信と  
 此去れ所神じらそやくそら所下り得  
 とあかくふと。好事らむまれし首あ

神言りそつらわらし乃。はあ。快とあふ  
 事あくつらとや。それ。徳治うと。大元  
 寺の法皇は拂とゆき死くまひもせし  
 作しきし。ま。た。宣りて。不。成。の。由  
 あら。あ。り。あ。や。ま。う。も。幾。程。く。く  
 甚。験。と。ゆ。り。う。と。や。か。も。い。う。の。事。は。な  
 す。し。ん。の。事。は。人。の。中。に。ゆ。り。道。朝。禪。門。事。今  
 日。の。り。の。事。は。ま。く。と。い。は。ひ。う。ら。ゆ。さ。や。い  
 つ。も。と。ま。さ。ら。う。り。り。く。う。の。難。と。い。は。ゆ。や  
 と。せ。く。り。の。事。は。あ。ら。い。の。ま。よ。と。い。は。ゆ  
 し。そ。が。あ。ら。い。の。事。は。あ。ら。い。の。ま。よ。と。い。は。ゆ



うらうらて八月十二日まの御座とてせうも同  
 出度事とのくしりよめよとてづゆの天のそ  
 よううらふき勢とらんれ。胸の中よりきり  
 めり澤とのうらうらとらんれ。ゆめづく二三日  
 のやうに光徳神人一二万人も布列よとてつま  
 お道もよりひくぬがしき。まじはぬれは都の  
 中ゆすりまらく物らりりのけやうの志は  
 公人がさめとらひ志うらうらとてぬく。何  
 しとそらうらうらとてそそぬ。しうらうら光徳と  
 公衆院と集金ふらうらとてひひまら。あまらゆ  
 めりてひひふらうらとては。公衆のあまらうら

こそひりしうらうら。城の神ひの記よ。ゆめとて  
 しうらうらとて。晴らうらうら。今日もこそ  
 わらうらとて。あまらうら。人のあまらうら。  
 公卿もあまらうら。装束もあまらうら。あまらうら。  
 うらうらとて。あまらうら。あまらうら。あまらうら。  
 神もあまらうら。あまらうら。あまらうら。あまらうら。  
 曹平洞房寺へあまらうら。あまらうら。あまらうら。神  
 人光徳やうらうら。あまらうら。あまらうら。あまらうら。  
 七町の公とてあまらうら。あまらうら。あまらうら。あまらうら。  
 懐雅持僧正とてあまらうら。あまらうら。あまらうら。あまらうら。  
 くの東のたれあまらうら。あまらうら。あまらうら。あまらうら。

卷十四

五





竈東のうらと下給ふて園白以下志人  
 産の前より下してまをさう向つく。布敷すれと  
 き給く後本社の日柳ふ取の日正柳かき取  
 給。社友より庭而く持より。比時樂人還場樂  
 と奏。氏。登。譯。うらとく。か。く。く。園白下  
 備網まく。首と地。く。若く。平伏と。中門の  
 色。く。く。若。給。回。公。卿。本。若。極。く。若。く。若。  
 く。決。身。り。神。行。よ。く。若。く。若。く。若。く。若。  
 列。ハ。く。も。お。好。く。車。あ。れ。と。比。度。見。及。ひ。り。  
 や。う。と。給。り。や。り。  
 先。亦。仕。下。二。り。よ。敷。十。人。白。杖。と。り。く。若。ひ。と。

況く。白。衣。の。社。人。敷。百。人。柳。の。枝。と。り。決。布。敷  
 若。大。の。社。の。社。友。よ。社。人。敷。百。人。お。後。下。決。又  
 黄。衣。此。社。人。敷。百。人。河。り。決。口。正。柳。社。日。よ。も  
 束。帯。と。若。く。後。面。と。若。く。若。く。若。く。若。く。若。  
 社。人。敷。百。人。随。く。ま。り。若。く。若。く。若。く。若。く。若。  
 奏。して。供。奉。比。決。園。白。敷。柳。の。下。襲。よ。絲。  
 鞋。と。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。  
 よ。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。く。若。  
 と。り。前。庭。に。入。り。後。よ。河。り。決。太。大。長。敷。湯。前  
 長。敷。上。人。一。人。前。庭。二。人。若。り。決。今。若。川。大。納。言。決  
 苑。山。院。大。納。言。若。糖。と。り。若。く。若。く。若。く。若。く。若。



物より若くはかやりに申河のりよりそのりも  
 晴く。柳よりけり夕日影香未山の代志流毛。  
 うみうらあしきあきさうとさうさういひこし  
 津人たちの整躰のあうさうさういひ興あとの  
 あさやうさうさういひも紫よとの河いねさうい  
 つるさうさういひもいねさういひさういひ柳さ  
 稽さうさういひさういひの杜れさういひさういひ  
 かのきさういひさういひさういひさういひさういひ  
 うい楽のあさういひさういひの志いひのめさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ

あさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 將軍六條よりさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 物のさういひさういひさういひさういひさういひ  
 事たさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 縁ういさういひさういひさういひさういひさういひ  
 志のさういひさういひさういひさういひさういひ  
 ういさういひさういひさういひさういひさういひ



て筑紫の日向國より徳峯舟天くうり給  
 りた。比天兒を招命と許しがめなむく。を秋  
 の日のしし。さうん海のしし。さう徳の地にて  
 うし。さう。よ天照古神賢く誓く。のし。由  
 りく。我子孫は。は葦原中津國のら。う。う。  
 し。海の子孫は。代々。四柄を執く。命。と。き。  
 敵と等く。し。し。て。助。を。由。し。と。許。約。り。り。と。  
 ち。し。り。さ。か。の。契。し。し。葦。原。さ。く。果。と。お。さ。ん  
 矣。る。し。し。し。凡。と。き。の。感。する。か。よ。似。し。り。國。を  
 守り。君。と。輔。佐。し。も。り。い。ん。れ。き。し。り。り。海。を。り。  
 川。今。の。ま。日。の。こ。は。敵。し。く。し。し。し。し。を。始。執。柄。を

の。由。先。祖。そ。う。し。し。代。の。末。に。さ。り。え。れ。と。む  
 伊。勢。古。神。宮。の。ら。子。孫。を。し。し。ぬ。人。の。位。し。即。事。は  
 一。度。も。し。し。又。ま。日。の。神。孫。を。し。し。ぬ。人。も。執。柄。し  
 ぬ。る。も。と。さ。し。し。し。し。し。し。を。許。國。の。い。し。し。し  
 験。し。し。し。し。し。し。唐。國。し。し。い。し。し。し。も。王。位。し。即  
 ち。や。と。と。蒙。古。帝。位。し。し。し。し。し。し。し。を。取。及  
 け。り。よ。の。つ。し。し。人。の。約。し。し。し。し。も。遠。事。は。好。  
 由。し。て。許。と。許。し。の。誓。約。天。地。を。ま。し。し。し。し。し  
 ち。也。し。し。し。し。し。し。國。の。賢。と。賢。と。と。と。し。し。し。し。し  
 り。し。し。し。し。し。し。不。可。と。議。の。礼。也。と。と。退。く。し。し。し  
 也。備。よ。長。日。大。め。神。の。由。事。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し



の任ふかりく日くはく死るるもよめつる  
 比林の神意よるまをくま下とて草創し  
 始りりよやとたれしひわりせしるるもく不思議  
 後しゆとてまをくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ぬくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 うんあまりよ林人む難人をりしうかのみ  
 せくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 せりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 おりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おま井おほひつる

同

かしんはよ年終るる古后ありく海く  
 人むかあらしもくくはわよ花のまぢあは  
 う海くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 しくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 比よ磯岨もよるかまありの屋らりよ  
 くらぶりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ゆかきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 しくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 しくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく







しあまし〜ゆ〜やぶは憾法結部さん  
 くも〜ちた大将殿あ〜せうゆ〜か〜り  
 ほう〜か〜き首〜い〜いり〜車  
 ー〜とら〜あ〜く〜あ〜んこ  
 せゆ〜に老のさあ〜くもゆ〜きた〜り  
 し〜拭〜み〜く〜び〜ら〜佛  
 車〜ん別殿のほ〜く〜い〜ら  
 う〜せ〜く〜ゆ〜く内裏〜く〜ぬ  
 為殿上人と教とけ〜く〜十人〜り先  
 陣〜ゆ〜び〜い〜過方志ほ〜く〜ら  
 く若持衣〜く〜い〜名〜わ〜く〜せ

から〜〜て〜西白〜前疑〜も〜又陣志  
 刀は履志後人〜く〜や〜く〜将衣  
 々〜き〜く〜あ〜い〜  
 や〜か〜ゆ〜ゆ〜と〜ゆ〜あ〜ゆ〜  
 等持院殿寢遊院殿い〜か〜く〜世の乱よ  
 け〜あ〜の〜く〜き〜く〜将軍の  
 神代〜〜り〜く〜日志風技と〜〜ん  
 十日の由嬢を〜う〜く〜人〜り  
 々〜陣〜く〜ハ〜か〜ら〜唐坐の剪と  
 きて〜り〜か〜の車〜ら〜ぬ〜り〜  
 々〜〜〜あ〜ゆ〜〜〜〜や〜殿と

のおららのりきさへゆふくもれり  
 しあらしりつらぬ入あくまのりかきぬいし  
 むうこおーし沖をぬり判貫乃也相とん  
 らぬやうーし三年のやとゆううささいし  
 いとーし近衛の大将とくもくうかーし  
 合くうやううそんをらーしこの具さ  
 か女房・臺盤おもひりくあまて入  
 け内をりうくとんぬしるまきしうてゆ  
 くーそおがぬゆらりーし唯名とそくさ  
 らとぬゆよとくくーかかくーし  
 ぬ成のほりりーしゆ素りかーしやなう

くあうくおがとん道場もくうり  
 くともこの歳定而八回とらりり  
 けーけーしひりりやのすこも終ひ  
 きーしゆ慮をまうく情華髪とくもぬ  
 りーしゆわのちれ沖産のうらゆ産と後  
 らうもやまゆ慮ーしとぬく量とーし  
 と卿の産くひもまかーしおけくさ  
 とーしきく情達の産くひ末乃貴子ー堂  
 との楽人の産とーしきものまきぬ  
 おうーぬさーあ地下まゆ伶人の煙とぬ梅  
 のよかひもぬぬられりわらもかきぬ

吹送りしる道風も芳ししむららそし  
 し後佛の口圓れさうらむくそそとら  
 らく方のけともさうらむらそそわし  
 眼しうらむらさうらむらさうらむら  
 太大将殿おの方換府よけそらふ中納  
 資康のふ別為すものりの方れ府さ  
 道場もそそさの中し人教さそそ  
 くら良憲僧心長聖法中房淳法中良壽  
 信邦！教固信邦！心慈信邦！者生よけ  
 堂との衆人！神前大納言うねととの  
 河大納言とねととのさ民部らのり

其家町首宰相公彦 苗室町首宰相中將と志  
 りとのり草園お宰相りとのり  
 皆のりとのり 苗冷泉三位とのり  
 めらうゆとのり 苗山科少將教をのり 苗  
 少將のりとのり 苗揚梅の少將うねと  
 地下の衆よのり 苗秀秋豊原房秋同盛秋同坑  
 秋月氏秋・草葉の安倍香村同季英・苗  
 大神景長同景房おけりく景秀羯鼓を  
 景純太鼓の豊原友秋へ・第の慮中  
 加賀の局今春の局へ人そ若座の極以中の  
 ちうゆさお長あそく神座れまの神座と

おうしもしは行く。決りし盤渉調のてうしと  
 物とりしし物のもしとてし西白し。未  
 帯衣冠巫衣の殿とてし。まうのむ花巻ぬ。  
 色くのたむしとてし。あり光佛ありし。  
 白河中将頭英物長とてし。神ありし。  
 以た中弁つし。を物長とてし。まうかど唯  
 后神もし。まうをり。唯后のたし。正  
 親町中将公仲物長とてし。た大ぬ敷の  
 以まう。洞院中将とてし。洞長友中洞とてし。  
 まう。洞長中ぬ。洞の洞長。洞のまう。洞物  
 少将まう。長聖法。まう。まう。教冬洞長。房法

下まうのし。ま物長。良秀傍部。まう。雅  
 良物長。教冬傍部。まう。た長清。徒す。ま物長  
 心兼傍部。まう。た長清。推法。重光。決り。松終  
 ま。樂ハ宗明。樂まう。決り。加陀をり。ま。い  
 こ。り。ま。い。ま。の。り。ま。採。桑。光。ま。り。決り。又  
 加陀をり。決り。調琴。良憲。傍部。云。れ。盤。り。の  
 ぼり。ま。い。ま。ま。終。り。り。萬。秋。樂。の。席。ま。り。教。れ  
 る。ん。り。ま。准。后。太。大。將。教。の。下。席。れ。拜。り。  
 決り。又。樂。万。秋。樂。の。破。太。根。ま。ん。の。二。ま。ん。り  
 一。樂。一。門。加。陀。一。門。ま。り。蘇。合。れ。ま。の。指。お。れ  
 一。破。息。白。粒。行。為。物。ま。の。ま。ま。ま。り。

卷十四下

十一

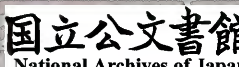
くまらうこもさうらうらうと海に吹く浪は梅の  
 楽輪臺青海波より決りし伽陀決りし妙  
 道あり唯后庭賦よりゆきかき神簾をこ  
 うきせよあふまを神門<sup>チカイ</sup>東家<sup>チカイ</sup>の口は花  
 やうりかひのほしきもゆらうらうらうとくれ  
 うらうらうらうらうと花うと神教珠とてを  
 かく短のうんゆそいさうらうとくれ  
 と神やうらうら唯后右大将殿中納言  
 別當皆を流すゆきゆきとく道てき若新  
 ぬふし時のねまゆらうらうらうらうら  
 しも昔もあうらうらうらうらうらうら

本寺の神納言もゆきしんじやうらうらうら  
 とくくさうらうらゆらうら本寺子海とせ  
 うらうら又ゆらうら樂ハ竹林樂より白白の  
 樂千秋樂より伽陀よりいらいくすま  
 ぬ事ふくくゆきいらいくあうらうらうら  
 事くくぬれいどいりて庭とて右大  
 殿の常の神ありけりゆきゆき海と神酒の  
 神と黒くかき先よりて庭とてゆき  
 うらうらぬ典内ゆきこのさぬらうら  
 この梅梅よりゆき春のあを平のゆき  
 ともゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

りくくおりぬし敷もつるゆりし  
父何と来んも道中がしこくをたぬいふ  
殿りのぬれやうりしとぬくてもをきさむ  
とゆりし  
月と晦日の日今日并二日也とのうき  
しふとぬししとゆりしとぬくてもをきさむ  
散花主人の雅親切長光長切長歌英切長  
公仲切長香中切長教長切長雅良切長實  
必資藤重光業後等あり今育しと上り  
ゆ道あり應安よの中日結彩とゆりし  
ゆりかともいふよの軍師集のゆりし

育しゆり道ゆりしと彼翁もゆりし  
いとまきゆりしゆりしとゆりしとゆりし  
とあつたゆりしゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
とゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし

二月一日并三日あり事とのうき  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし  
ゆりしとゆりしとゆりしとゆりし



長教之物語 雅民物語 資必資友意宣重光  
 かし妙り  
 曰し三日中一日して  
 けり  
 うつこのとれこのとろ  
 まく集りけり  
 見ゆし申のときりり  
 とむふそのありさゆ  
 せよ  
 て今日の上はにあり  
 のちにい

唯后ハ連座ヨ神拓飛せよと  
 きこゆりゆり  
 上堂下人  
 花の人数  
 名歌英胡  
 物語  
 惣統の樂  
 連華樂





りてこころを徳人うんしりゆりよお軍も志  
 んふのしり作しもゆりゆり物束いもや懐  
 けり僧侶三人樂人をもめをたてつこの神  
 西の貴子しり舟をしりてくくくくくくくく  
 ありまると神も大の教をてふをふりゆり  
 もくを舟しりてゆりてゆりてゆりてゆり  
 ともとふしりゆりゆりゆり管絃の道り  
 しくまきしりてゆりてゆりてゆりてゆり  
 ーしりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆり  
 月三日夜よへくしりてゆりてゆりてゆり  
 しくまきしりてゆりてゆりてゆりてゆり

若役人きらう雅物長つ〇重物長〇神物長〇  
 絲春羽長〇教之胡長〇資必資麻すを〇重光  
 るり〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 神酒宴ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 ぬ教もむとせゆり  
 月四日弟ちりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 教苑の教上人らう雅物長つ〇重物長〇下の  
 人〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 月六日きらう結紮ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 ちり申のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 常の神ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり



秀長卿長唯右の礼よりし雅物長太夫  
 お殿の礼あいつ子重胡長侍中納之長  
 中納之公仲お長友中納之の長いし林の胡  
 長別當のよりしをさう信胡長良憲信正り  
 よりし季平胡長長を信正りよりし雅長  
 お長房淳は中よりしよりしをさう長秀信胡  
 よりしよりしをさう教信信正りよりし資回より  
 心兼信胡胡信正りよりし徳礼を樂宗明樂  
 豊樂採桑老之寶徳のく藤合の序  
 敬礼のそん日三の信太根申ん又二さんつ  
 りよりしよりし日三の信太根申ん又二さんつ

てよりし日破色よりし信梅の樂輪臺青海波より  
 樂白桂廻向千秋樂よりしよりしよりし  
 望よりし民アア長清智冷泉之信教を胡長豊  
 原盛秋日長秋華兼兼國安信季村日季  
 英苗帥室町前宰相よりし雅お長のよりしよりし  
 お長大神景房日景秀長長信長前宰相第  
 室町前宰相中將意中よりし四張近清局太衆  
 川増局加賀局今よりしよりし局羯鼓秀秋太鼓太  
 神景長よりし宵の面よりしよりしぬりよりし  
 赤竹若よりしよりし加陀の都よりしよりし信はよりし  
 志よりしよりしよりしよりし又抑行道よりしよりし教も

くらりく事のごて散重り目出く下銀  
 金乃花句くと期り併て散花のしこよしと  
 らが傳進せらも伝らりくおととぬくこ  
 かきしきおし應安の判よておとと伝法  
 とこふもく枝の村よ出師ゆり内裏ま  
 女房達二十人しりりソらくのさぬとり  
 にく敷く東のおうたがもぬくあり  
 そのほうとぬくおきぬりくさ花句くと  
 あくおひらりぬくおとぬくあり  
 上人かたに花持くあつ折ぬくすたに  
 きらもぬくおとぬくぬくすの神歌七日に

とゆく結歌きりもぬく事。くさくこ  
 しばくまいしりよ右大将殿のしりこに  
 てありしはりにやきくおとぬくあり  
 くのちりよたりしりく同よおとぬくあり  
 のとぬくぬくぬくぬくの市酒のしあを  
 いときくひもきくぬくぬくぬくぬく  
 きくぬりぬくぬくぬくぬくぬくぬく  
 へきくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく  
 元徳うく信經うひよ食のすつと折ぬく  
 て散折よ及ぬ美姓のすつりぬくぬくぬく  
 へきくぬくぬくぬくぬくぬくぬくぬく





ようそゆりせんばあ付のさつこれおきよめ  
 てまの花もあまのさかきしほの糸の綿を  
 りぬいしゆりきりしほの糸の綿を  
 代への帝も仰しゆりしほの糸の綿を  
 うすりしゆりしほの糸の綿を  
 糸りゆりしゆりしほの糸の綿を  
 神佛のちりしゆりしほの糸の綿を  
 くわらしゆりしほの糸の綿を  
 ひもゆりしゆりしほの糸の綿を  
 としりしゆりしほの糸の綿を  
 とりしゆりしほの糸の綿を

愚問賢答序

同

やまの歌の道人もあまのさかきしほの糸の綿を  
 糸りしゆりしほの糸の綿を  
 こしりしゆりしほの糸の綿を  
 やりしゆりしほの糸の綿を  
 としりしゆりしほの糸の綿を  
 の趣向もあまのさかきしほの糸の綿を  
 よねらしゆりしほの糸の綿を  
 三十一字の真らんと弁うらふ  
 しと糸もあまのさかきしほの糸の綿を







うしよほひつらさるるをいふは  
るやうにまぢりつらうたうらも  
葉のちりうらまをいふは荒草の  
しこ紫とくちつらうらまをいふは

雲井乃花

同

聖人いふはつらうらまをいふは  
しこ紫とくちつらうらまをいふは  
やうにまぢりつらうたうらも  
葉のちりうらまをいふは荒草の  
しこ紫とくちつらうらまをいふは

成をいふはつらうらまをいふは  
いあへつらうらまをいふは  
月老をいふはつらうらまをいふは  
あつらうらまをいふは  
めつけつらうらまをいふは  
君をいふはつらうらまをいふは  
乃人をいふはつらうらまをいふは  
殿の宴とつらうらまをいふは  
年同三月つらうらまをいふは  
て大納言つらうらまをいふは  
攝政とつらうらまをいふは

群臣を召して御製成<sup>り</sup>給<sup>ふ</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>宴遊  
 ありしよりありし<sup>り</sup>白河院<sup>に</sup>遷<sup>り</sup>徳元二年三  
 月<sup>に</sup>左大臣<sup>が</sup>辨<sup>は</sup>匡<sup>は</sup>房<sup>は</sup>勅<sup>して</sup>花<sup>は</sup>実<sup>は</sup>多<sup>は</sup>春<sup>は</sup>とい  
 冠<sup>は</sup>子<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>ん<sup>は</sup>き<sup>は</sup>り<sup>て</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>て<sup>は</sup>禮<sup>を</sup>と<sup>り</sup>終<sup>る</sup>  
 又<sup>は</sup>鴨<sup>は</sup>川<sup>に</sup>院<sup>を</sup>承<sup>り</sup>長<sup>は</sup>元<sup>は</sup>年<sup>に</sup>三月<sup>に</sup>中<sup>は</sup>納<sup>は</sup>公<sup>は</sup>匡  
 房<sup>は</sup>卿<sup>は</sup>勅<sup>して</sup>勅<sup>は</sup>実<sup>は</sup>多<sup>は</sup>春<sup>は</sup>とい<sup>し</sup>冠<sup>は</sup>子<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>ん<sup>は</sup>と<sup>り</sup>就  
 勢<sup>は</sup>し<sup>り</sup>て<sup>は</sup>宸<sup>は</sup>宴<sup>を</sup>と<sup>り</sup>ら<sup>る</sup>き<sup>は</sup>崇<sup>は</sup>徳<sup>は</sup>院<sup>に</sup>天  
 承<sup>り</sup>元<sup>は</sup>年<sup>に</sup>十月<sup>に</sup>中<sup>は</sup>納<sup>は</sup>公<sup>は</sup>勅<sup>して</sup>  
 松<sup>は</sup>樹<sup>は</sup>之<sup>は</sup>緑<sup>を</sup>とい<sup>し</sup>冠<sup>は</sup>子<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>ん<sup>は</sup>勢<sup>は</sup>し<sup>り</sup>て<sup>は</sup>宸  
 宴<sup>を</sup>とり<sup>し</sup>順<sup>は</sup>徳<sup>は</sup>院<sup>に</sup>建<sup>り</sup>保<sup>り</sup>六<sup>は</sup>年<sup>に</sup>八月<sup>に</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>  
 兼<sup>り</sup>原<sup>は</sup>朝<sup>は</sup>長<sup>は</sup> 光明<sup>は</sup>華<sup>は</sup>寺<sup>は</sup> 小<sup>は</sup>勅<sup>して</sup>池<sup>は</sup>月<sup>は</sup>久<sup>は</sup>明<sup>は</sup>とい<sup>し</sup>不

冠<sup>は</sup>子<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>ん<sup>は</sup>き<sup>は</sup>り<sup>て</sup>禮<sup>を</sup>と<sup>り</sup>終<sup>る</sup>  
 徳<sup>は</sup>二<sup>は</sup>年<sup>に</sup>二月<sup>に</sup>中<sup>は</sup>納<sup>は</sup>公<sup>は</sup>を<sup>り</sup>定<sup>り</sup>邸<sup>に</sup>勅<sup>して</sup>  
 花<sup>は</sup>実<sup>は</sup>多<sup>は</sup>春<sup>は</sup>とい<sup>し</sup>冠<sup>は</sup>子<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>ん<sup>は</sup>勢<sup>は</sup>し<sup>り</sup>て<sup>は</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>て<sup>は</sup>禮<sup>を</sup>  
 とり<sup>し</sup>建<sup>り</sup>保<sup>り</sup>二<sup>は</sup>年<sup>に</sup>四月<sup>に</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>二年三  
 月<sup>に</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>二<sup>は</sup>年<sup>に</sup>三月<sup>に</sup>建<sup>り</sup>武<sup>は</sup>二<sup>は</sup>年<sup>に</sup>正月<sup>に</sup>清<sup>は</sup>涼  
 殿<sup>に</sup>て<sup>は</sup>和<sup>は</sup>歌<sup>を</sup>宴<sup>を</sup>とり<sup>し</sup>とい<sup>し</sup>と<sup>り</sup>之<sup>は</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>  
 あり<sup>し</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>乃<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>先<sup>は</sup>規<sup>は</sup>とい<sup>し</sup>と<sup>り</sup>  
 了<sup>る</sup>と<sup>り</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>乃<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>先<sup>は</sup>規<sup>は</sup>とい<sup>し</sup>と<sup>り</sup>  
 席<sup>に</sup>成<sup>り</sup>を<sup>り</sup>す<sup>り</sup>の<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>乃<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>先<sup>は</sup>規<sup>は</sup>  
 春<sup>は</sup>九<sup>は</sup>城<sup>は</sup>乃<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>御<sup>成</sup>行<sup>の</sup>中<sup>は</sup>殿<sup>に</sup>乃<sup>は</sup>左<sup>は</sup>大臣<sup>は</sup>先<sup>は</sup>規<sup>は</sup>  
 礼<sup>を</sup>と<sup>り</sup>す<sup>り</sup>時<sup>は</sup>あり<sup>し</sup>あり<sup>し</sup>と<sup>り</sup>宸<sup>は</sup>宴<sup>を</sup>と<sup>り</sup>り<sup>し</sup>不<sup>は</sup>さ

心々事有り。越前序乃と。建保比。鑑<sup>年</sup>弱と  
 事ら。福々。開白。あね。成う。を。く。り。たる。征  
 夷大將軍。は。ら。す。を。乃。ん。ゆ。一。を。あ。こ  
 う。す。て。勅。撰。か。や。を。中。と。こ。な。を。外  
 う。へ。建。武。宸。宴。と。館。左。府。乃。昔。獨。明。を。り  
 け。り。さ。り。の。一。事。と。勅。者。よ。り。て。あ。ら。り。は  
 未。き。く。新。ま。く。に。高。付。乃。花。親。後。代。乃。あ  
 儀。き。り。ま。や。ま。り。親。人。左。少。弁。仲。光。並。日  
 勅。喚。乃。人。々。り。越。城。く。たる。あ。多。春。友。や。い  
 へ。不。疑。あり。け。き。ひ。圓。白。建。保。乃。例。よ。り。を  
 く。あ。た。は。か。越。あ。ら。り。り。り。の。一。中。う。あ

程々。あ。あり。あ。り。は。清。殿。乃。清。装。束。と。あ。ふ  
 母。屋。底。乃。清。簾。城。南。ゆ。く。階。は。あ。の。間。より  
 こ。う。間。水。は。折。て。を。乃。く。養。乃。あ。府。き。て  
 云。卿。は。産。く。ん。開。白。乃。産。二。枚。と。り。さ。ね。若。法  
 元。徳<sup>年</sup>。り。の。二。り。き。り。や。い。一。や。二。り。な。後  
 き。り。り。小。清。と。て。け。き。ひ。か。く。の。く。く。府。を  
 ゆ。り。あ。る。る。畫。清。乃。日。比。乃。く。清。帳。の  
 東。あ。の。ま。小。三。尺。乃。清。几。帳。を。き。り。り。新  
 西。あ。第一。は。ゆ。り。心。香。清。清。屏。風。紙。あ。は。り  
 畫。清。乃。の。く。へ。清。翹。乃。清。観。管。た。と。く  
 つ。杯。の。く。へ。大。に。け。産。乃。と。く。奏。議。乃。産。の

まゝをこれくきつ焼臺一本をきつ川にさし  
 燈臺又臺を度方とを朝よのてそと  
 終よとゆくと。東よりくあつるおとめ法  
 心よりいりあつゆの園白を今物より忠  
 一春假とくふ。右大臣内大臣あふあふ小  
 虫衣始たりま刻り園白虫廬よりゆ  
 乃あり新内大臣以下あひ志さるふ今日  
 高仕始やうく保あは例よりよりて。虫廬  
 より虫衣始乃事あり。前驅布袴隨身  
 福の杯のあう。且刻よりり小將軍泰  
 ぎくは。越のり糖万人よりおとるるさ

とふ事ゆ。為秀行忠實細御為邦朝長  
 といふ由緒。つとく。庭とめわたり。門  
 陣は是より泰入す。川帯刀十人たふ。行列  
 一番

左四佐木佐渡四部四左衛門四明秀時一  
地は並雲合原のくめて四月往  
 せに紅の標のいこの合作のた刀

二番

左行一伊勢七郎左衛門行一貞信行一  
地は並雲合原のくめて四月往  
 せに紅の標のいこの合作のた刀

三番

左金一大内修理亮金一詮弘金一  
地は並雲合原のくめて四月往  
 せに紅の標のいこの合作のた刀

右大内七郎経長 此ころとつきのと云ふ人なりと云ふとく  
孫美くくつとつと作のた刀

四番

右海老名七郎左衛門経季 此よりと云ふ茶保のと云ふ美為よ  
て大ととす美保のた刀

右本間左衛門大郎茂景 此のしつと云ふはつらりは美保  
全派は為すと同様とす紅のこしはた刀

又番

右山城守左衛門尉政 此の美保は泥めくす  
とくはた刀

右栗原源平左衛門尉経胤 此よりと云ふの美保は泥して水と云ふ  
美保とて楓と書保美保大惟美保

建久暦仁より虎皮は尻鞘とらへててける

あやひをいれれなく白た刀たり次は大樹

常の美保よりす及のりとの美保の 左は切こつと云ふ小山  
拾貫のれをのりけさねはいす

氏幼少捕氏信 此の美保はつらりさねはき  
ひつらりさのさしはき

右ささき小指津掃部右衛門直 此の美保はつらりさねはき  
衣より美保はしはき

右此やういり乃切と云ふ小作 本備前

右印左衛門尉高久 二重のり 潤度没本郷左を

大史右監経春のさし及は美保 此の美保はつらりさねはき

右美保はつらりさねはき 本備前

伊豫守貞世侍 此の美保はつらりさねはき

右美保はつらりさねはき 本備前

元赤松判官光範 此の美保はつらりさねはき

尾張守秀俊 高久 安東信濃守高春曾致美保

氏助小嶋掃部助 此の美保はつらりさねはき

同又次郎高繁 此の美保はつらりさねはき

初ついで成なりの屋代新藤人師團佐脇太系亮  
 の秀葉科新左衛尉家治中鴻孫之郎家  
 信後藤藤伊勢守久下筑前守濱名太系亮  
 治政藤野中羽守忠光長次郎横地山城守  
 波多神中雲守望打といく乃忠雲守なり  
 府受方といふいさく才是明まよつとて  
 汝身不同り志くし侍ら也び度候も泰  
 仕乃久高職の時いゆも大納言に廣城  
 奏を以て又忠叔始志候ゆ建久通余太  
 大納言と泰也此例も准して志く志く  
 成器もく禮く帯刀役人といひと石具

給ふるもとせ取里侍りし又忠叔も建久  
 曆仁乃例もたすて如打を成り候也  
 終るもとせ取里大掛當上此のち  
 役人帯刀中門の弁り敷皮志をそ別  
 居は河川別物よりして清前此右のち  
 関白清前も候も別限もい多りて  
 人々殿よりつく太右長也長按察実冠  
 藤中納言時光冷泉中納言為秀別當忠光  
 侍従宰相行忠小倉前宰相中納言実久二條  
 為宰相為忠富小路前宰相中納言実忠太右  
 清盛為忠是等少く役重入下も細細乃事



毛のり。用白奉仍此職多。仲光と下く  
 事法具少ととる。やそ此侍四さけ西衣  
 あり。園白也。度は法く。次頭左中辨嗣  
 房物也。然し。云卿是存す。身由と作は  
 嗣房朝長殿とす。い多。法卿とめは。右大  
 内大臣。以下次身小。是存は。大樹の殿とす  
 い多。存と。終と。也。下。法。前。下。進法。く。法  
 つ。く。く。存。よ。つ。く。乃。ら。園。白。仲。光。と。下  
 て。切。焼。甚。き。つ。へ。さ。由。成。作。す。仲。光。焼。甚  
 を。持。来。は。又。位。殿。と。人。侍。頭。也。と。お。く。法。不  
 法。存。の。か。つ。に。き。ら。次。園。白。嗣。房。朝。長。殿

百く。又。甚。と。進。へ。さ。由。成。作。と。嗣。房。朝。長  
 や。く。法。前。よ。す。と。て。法。存。よ。つ。る。法。規  
 法。の。蓋。と。死。く。法。前。よ。進。く。と。り。也。く。又  
 仲。光。と。下。く。法。存。と。く。へ。さ。由。成。作。と。仲  
 頭漢作藤原懐國漢作二人。法。存。成。持。く。法  
 前。よ。進。く。と。り。也。く。次。り。殿。と。人。より。次。身  
 由。成。作。と。也。先。君。人。懐。國。也。と。く。但。并  
 二。小。後。作。よ。り。法。存。次。為。教。と。進。く。と。な。く。仲。光。為  
 有。物。也。為。神。朝。長。為。重。物。也。法。存。捕。朝。長  
 み。か。次。身。小。也。と。く。法。存。よ。進。く。と。下。福。も  
 又。也。と。く。右。大。内。侍。等。法。存。よ。進。く。と。下。富

卷四下

三十一

小治前宰相中將二條右宰相小倉右宰相  
 相伴約按察内大臣大臣園白懐紙乃足  
 や。藤り形とれ物ひく也園白建保の  
 例よりりて序者きりとりやも位次小  
 海をそて毛海く。又直叙ありて藤  
 りありあり太園元徳中殿侍奉よけ非流  
 侍新うや。大樹奉府并侍ありや。懐紙  
 をみくともく。其作流優美此より一人一  
 回は感嘆乃多あり。大臣懐紙よりり  
 よりりてすく。ゆ侍あり。ゆ侍よりつく。次大臣  
 懐紙仲きんとり。侍前ゆ侍よりすく。み

流く。次海頭乃人せめす。序と懐紙多あり。為  
 秀卿忠光卿 あらを序れ 為忠卿為意。つたり。  
 又行補為重為非等の朝長め。ありりく  
 簀子よす。と流。次大臣為重朝長とる  
 て 下 懐紙をよりり。序より次第ゆ  
 以て。又基乃とあり。さく。仲きあらむと  
 よび人く。溝頭序ハ。と反し。り。これと流す。  
 園白歌又反。故懐あり。次殿と人より。つ。中  
 い。よりりて。次身ゆ。毛と流。をより。れ。云。卿と反。  
 大樹丞相と。の。方。と反。く。り。これと流と。  
 信下。寄。故。懐。お。く。り。て。講。讀。所。み。れ。より。地。く。



彦と取く去りて、次嗣房朝長次とく、  
 又書とるへき由次作と。嗣房朝長沙前  
 よりすみく沙製次橋中して、沙視蓋と五  
 てりあしとく、沙視と書く。長下乃并と  
 之次とりて去りて、佐人三條大納言  
 實音<sup>實音</sup>左宰相中將<sup>實綱</sup>前無部卿<sup>實親</sup>  
 大右<sup>大右</sup>侍<sup>侍</sup>後水部<sup>後水部</sup>三位<sup>三位</sup>兼<sup>兼</sup>左<sup>左</sup>近衛<sup>近衛</sup>右<sup>右</sup>大臣<sup>大臣</sup>  
 兼<sup>兼</sup>宗<sup>宗</sup>泰<sup>泰</sup>朝<sup>朝</sup>長<sup>長</sup>廿<sup>廿</sup>号<sup>号</sup>由<sup>由</sup>人<sup>人</sup>實<sup>實</sup>子<sup>子</sup>、惟<sup>惟</sup>と次<sup>次</sup>管<sup>管</sup>治<sup>治</sup>  
 の具<sup>具</sup>次<sup>次</sup>とく、先<sup>先</sup>嗣<sup>嗣</sup>房<sup>房</sup>朝<sup>朝</sup>長<sup>長</sup>沙<sup>沙</sup>前<sup>前</sup>乃<sup>乃</sup>管<sup>管</sup>と約  
 て、圓<sup>圓</sup>白<sup>白</sup>の<sup>の</sup>彦<sup>彦</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>とく、圓<sup>圓</sup>白<sup>白</sup>と書<sup>と</sup>て  
 筆<sup>筆</sup>子<sup>子</sup>よりすくして、沙<sup>沙</sup>前<sup>前</sup>と書<sup>と</sup>く、去<sup>去</sup>りて、

次<sup>次</sup>修<sup>修</sup>頭<sup>頭</sup>朝<sup>朝</sup>長<sup>長</sup>笛<sup>笛</sup>管<sup>管</sup>と持<sup>持</sup>く、圓<sup>圓</sup>白<sup>白</sup>の<sup>の</sup>前<sup>前</sup>とく、  
 次<sup>次</sup>基<sup>基</sup>清<sup>清</sup>朝<sup>朝</sup>長<sup>長</sup>琵琶<sup>琵琶</sup><sup>象丸大樹</sup>、次<sup>次</sup>和<sup>和</sup>琴<sup>琴</sup>管<sup>管</sup>六<sup>六</sup>位<sup>位</sup>兼<sup>兼</sup>左<sup>左</sup>近<sup>近</sup>衛<sup>衛</sup>右<sup>右</sup>大臣<sup>大臣</sup>  
 乃<sup>乃</sup>前<sup>前</sup>小<sup>小</sup>とく、次<sup>次</sup>和<sup>和</sup>琴<sup>琴</sup>管<sup>管</sup>六<sup>六</sup>位<sup>位</sup>兼<sup>兼</sup>左<sup>左</sup>近<sup>近</sup>衛<sup>衛</sup>右<sup>右</sup>大臣<sup>大臣</sup>  
 是<sup>是</sup>次<sup>次</sup>とく、圓<sup>圓</sup>白<sup>白</sup>笛<sup>笛</sup>管<sup>管</sup>と取<sup>取</sup>く、次<sup>次</sup>沙<sup>沙</sup>  
 遊<sup>遊</sup>付<sup>付</sup>とす。若<sup>若</sup>し此<sup>此</sup>殿<sup>殿</sup>鳥<sup>鳥</sup>破<sup>破</sup>序<sup>序</sup>田<sup>田</sup>多<sup>多</sup>急<sup>急</sup>律<sup>律</sup>  
 小<sup>小</sup>停<sup>停</sup>響<sup>響</sup>海<sup>海</sup>五<sup>五</sup>歲<sup>歲</sup>末<sup>末</sup>三<sup>三</sup>基<sup>基</sup>急<sup>急</sup>沙<sup>沙</sup>遊<sup>遊</sup>付<sup>付</sup>とす、  
 圓<sup>圓</sup>白<sup>白</sup>沙<sup>沙</sup>笛<sup>笛</sup>管<sup>管</sup>と持<sup>持</sup>く、嗣<sup>嗣</sup>房<sup>房</sup>朝<sup>朝</sup>長<sup>長</sup>と書<sup>と</sup>く、  
 と書<sup>と</sup>く、給<sup>給</sup>ふ。よの役<sup>役</sup>人<sup>人</sup>殿<sup>殿</sup>と云<sup>云</sup>位<sup>位</sup>六<sup>六</sup>位<sup>位</sup>兼<sup>兼</sup>左<sup>左</sup>近<sup>近</sup>衛<sup>衛</sup>右<sup>右</sup>大臣<sup>大臣</sup>  
 うつと、よの役<sup>役</sup>人<sup>人</sup>殿<sup>殿</sup>と云<sup>云</sup>位<sup>位</sup>六<sup>六</sup>位<sup>位</sup>兼<sup>兼</sup>左<sup>左</sup>近<sup>近</sup>衛<sup>衛</sup>右<sup>右</sup>大臣<sup>大臣</sup>  
 翌<sup>翌</sup>日<sup>日</sup>年<sup>年</sup>別<sup>別</sup>く、りめと書<sup>と</sup>く、りて、人<sup>人</sup>と書<sup>と</sup>く、  
 かりいは、は度<sup>度</sup>急<sup>急</sup>律<sup>律</sup>乃<sup>乃</sup>制<sup>制</sup>めりて、録<sup>録</sup>乃<sup>乃</sup>



一と云ふは、さういふを敬也。誅は、かたり  
 強をさういふは、勇也。遠をさういふは、見  
 名也。び、丑常と備へくは、衆呼をさうい  
 我朝仁徳天皇とす。野の神、幸河り  
 りり代々の帝、片野禁野、北野、宇田、芥  
 河の遠遙絶るるなり。就中寛平宮、徳の  
 神、幸勝負の神、将の儀式、北野、天神、これ  
 と云ふなり。一と云ふは、末代鷹也。乃の飛、焼く  
 をや、毎月左右の近來、廿四、廿六、この鳥  
 賦、さういふは、乃の曹司、乃の數、聯乃、良  
 鷹をさういふは、數、牙の逸、大をさういふは、母

屋の大饗、一と云ふは、上客料理をさういふは、さういふは、  
 庭と云ふは、さういふは、徳園の将、北野、驛路の鈴  
 と云ふは、さういふは、驛、糧也。設けと催は、さういふは、  
 一と云ふは、北野守の境、新と云ふは、さういふは、奥、こ  
 一と云ふは、乃の由、乃のさういふは、さういふは、乃の杖、乃のさ  
 一と云ふは、乃の金、乃の東の宮、乃のさういふは、乃のさ  
 田獵、乃の遊、乃のさういふは、乃のさういふは、乃のさ  
 乃の名、乃のさういふは、乃のさういふは、乃のさ  
 乃の白、乃のさういふは、乃のさういふは、乃のさ  
 乃の小、乃のさういふは、乃のさういふは、乃のさ  
 乃の奇、乃のさういふは、乃のさういふは、乃のさ

ちんちんの白鷹づりの相鷹経——うさくかのこ  
 うしうしひその毛雪——秋中、海に楚國  
 の鵬をとおとせり良鷹——こころす首頸白  
 綿——ふきつらうとく——羽毛ハ斑縵をさせり  
 よぬうり首尾三尺よを——り遠くして羽毛  
 おかくをくして羽毛すく——前よむく  
 ハ版の——く——羽翼あつて——事、朝  
 のこと——く——て中——く——目  
 先明星よぬ——り——く——人——對を  
 むらん愁毛白糸の——く——目のおれをさし  
 うく——く——鼻のひまをく——く——

くらり——く——やえり、歌、ゆつ——く——あめ  
 この——く——眉ひ——く——男よそく——く——ひを  
 る、れ毛——く——く——りのも綾を——く——りて  
 うきんの毛——く——ら羽おが——く——く——  
 一の羽——く——く——二の羽——く——く——  
 くの廣——く——て馬をとん——く——り、やうこ  
 やうせん毛——く——く——夜の毛白綿を——く——く——  
 羽翼——く——く——の——く——志、川、骨、おが  
 き——く——り、ひ——く——く——毛、——く——く——  
 後——く——尾、やうこ、ぬ——く——く——く——  
 おく、い、ぬ——く——く——く——羽、く——く——





身よ齡乃較あしりれて較室お給せんしと  
 けりさ丸ねろも枕し不勢おたまてぬれま  
 けり曉もさあせのましめのあしりまを  
 おあしおほまらうまかたさくして人の身か  
 けりほろの海まをさあせのまをわ  
 の朝の命をまをさあせのまをわ  
 らまやしなし身をまをさあせのまをわ  
 せよけりまをさあせのまをわ  
 海よ二ちたてまをさあせのまをわ  
 もあしり身をまをさあせのまをわ  
 おあしり身をまをさあせのまをわ

身よ齡乃較あしりれて較室お給せんしと  
 けりさ丸ねろも枕し不勢おたまてぬれま  
 けり曉もさあせのましめのあしりまを  
 おあしおほまらうまかたさくして人の身か  
 けりほろの海まをさあせのまをわ  
 の朝の命をまをさあせのまをわ  
 らまやしなし身をまをさあせのまをわ  
 せよけりまをさあせのまをわ  
 海よ二ちたてまをさあせのまをわ  
 もあしり身をまをさあせのまをわ  
 おあしり身をまをさあせのまをわ

昔一光の御事いしかりゆきくはるしはま  
 とるかたの御事いしかりゆきくはるしはま  
 廣たりし御事いしかりゆきくはるしはま  
 ほど御事いしかりゆきくはるしはま  
 あきた御事いしかりゆきくはるしはま  
 も御事いしかりゆきくはるしはま  
 集りし御事いしかりゆきくはるしはま  
 かも御事いしかりゆきくはるしはま  
 いか御事いしかりゆきくはるしはま  
 いか御事いしかりゆきくはるしはま  
 の境續とていしかりゆきくはるしはま  
 いか御事いしかりゆきくはるしはま

ありしを御事いしかりゆきくはるしはま  
 より御事いしかりゆきくはるしはま  
 一もの御事いしかりゆきくはるしはま  
 とも御事いしかりゆきくはるしはま  
 原氏も御事いしかりゆきくはるしはま  
 巻を御事いしかりゆきくはるしはま  
 ありし御事いしかりゆきくはるしはま  
 とも御事いしかりゆきくはるしはま  
 けりし御事いしかりゆきくはるしはま  
 是ハ御事いしかりゆきくはるしはま

かしら記御門の法前より一かたき男よ  
 あまの御子にけりしをきかすうりつ  
 後鳥羽院は後醍醐院なる御代に殊よ  
 きくくしつりしはかみなり乃ゆらねるを  
 是れこそは後醍醐院なる御代に殊よ  
 よむ人れ中しは美事なるかみなりつ  
 しかかきしをゆらねる御代に殊よ  
 是れ後成定なる御代に殊よ  
 美事をいしは美事なる御代に殊よ  
 雲は美事の御代に殊よ  
 名きしは人々の美事なる御代に殊よ

是れ後成定なる御代に殊よ  
 美事をいしは美事なる御代に殊よ  
 雲は美事の御代に殊よ  
 名きしは人々の美事なる御代に殊よ  
 是れ後成定なる御代に殊よ  
 美事をいしは美事なる御代に殊よ  
 雲は美事の御代に殊よ  
 名きしは人々の美事なる御代に殊よ

秋よこれ歌をぬきあそりゆらいつたる事  
 うねはほほゆらゆら連歌とつらつら  
 よむ人乃しむしにあまうらもむしつとそ  
 そゆらるる氏つ日本ちものよも名も  
 けらとれ我身と連歌の名もや人の  
 らよもしつらつらむしつらつらつら  
 けり羽後の侍代より記し歌のよも  
 梯のよも名も名付けられつらつらつら  
 此中の名と名付けられつらつらつら  
 若とてよもする歌重き事つらつらつら  
 侍時とねいお百のけりものねつらつらつら

宇十とつらつらつらつら日記にゆらつら  
 齡つけてつらつらつらつらつらつら  
 新文を歌ものせつらつらつらつら  
 嵯峨院の侍代より井内侍少将内侍  
 といつら女房連歌つらつらつらつら  
 事つらつらつらつらつらつらつら  
 ちれふつらつらつらつらつらつら  
 ちよつらつらつらつらつらつらつら  
 らまらつらつらつらつらつらつら  
 ねよつらつらつらつらつらつらつら  
 事つらつらつらつらつらつらつら

乃蘇白塔事ははまのあし何とんまのん  
 のま歌をいみ給ふらむ福心のねりしり。  
 程用らしゆらんたはせらしとささりたり  
 じ人のま歌にもしれまのまのあつたよ  
 さしよの哥の判乃詞とらまもすんてた  
 の入入のね事よもまらうたれしといふ  
 ししくまのゆらほ境都院乃清時なとい  
 西屋乃事し判の相かまねはかまら  
 き為あつた後おトなごうまといふに  
 物しをさうて判乃花をさくられしは  
 比あまいた乃あやまらあしとんまの

にさめささゆらとま。まはこつらあつら  
 あつた。考國の文もさうわらう人はずし  
 おの詞はあつたよまのつられたる事  
 ろや。されま後ふら詩ゆりまてあり  
 とは。にまのま後成定あつたまはひ  
 ろくまのまをさうれらる人あつた判も  
 考國の相をかまらゆらまのまわら  
 今、我道の事をさそらつたまのまらあ  
 あしねるまらつたまのまのまけまは  
 判乃詞わらまらまのまのまあり  
 勢むまらまらまのまのまのまらあ

是ゆらに法よてアツてせんえんふしはく  
 ぢういものたむを老の癖みは移まざる  
 事しうかくはくわん身あつてしと  
 笑ゆきされとむりしとらこのみこ  
 此一あつていしとらこのみこ  
 せれうみしとら世の障しは移ゆ  
 たりりう牛一美の畜獸はぬん求ま  
 とも争りもあつて茶多の多是も  
 ろい伊勢物相せり尋しして茶の  
 とさあつてかこさしとら  
 おうのこれ較しはむいさし

井井中乃蟻のころもいり  
 とらるしとらうりて大鴨さ  
 一羽よあつてかけりきたあんと  
 ちうりあつてはにほむ  
 のしとらあつてはにほむ  
 ちうりあつてはにほむ  
 とらるしとらうりて大鴨さ  
 一羽よあつてかけりきたあんと  
 ちうりあつてはにほむ  
 のしとらあつてはにほむ  
 ちうりあつてはにほむ  
 とらるしとらうりて大鴨さ  
 一羽よあつてかけりきたあんと  
 ちうりあつてはにほむ  
 のしとらあつてはにほむ  
 ちうりあつてはにほむ

多しをぬにふすものめらぬはあはれ  
 之申比も匡房邦絶かまひり人くは  
 之を指録大臣の家乃内にいりや  
 此人をりかとも後天下の宝寶とあり  
 まは邦絶大納言は武家とよの事をもし  
 とし我のよはてしなきもいふをえ  
 といへ人の賤く教ありぬものしき  
 かとも鎌倉の右大納言といへしき  
 日本國のしきをしきといへしき  
 徳兵衛地頭かともおきたるしけ人の  
 されともおぼりりかやりの人を

うねりてしき物ぬれ権頂めてあ  
 るかぬさうあう人きる事か物茶島の  
 ともかともいふしけおとてしよ  
 一ありをいやくわきまうてしよ  
 人のありしきれたるもて大事しき  
 ともいひしきしりてしり人をきり  
 海門をばおぼしめしきしき  
 一人をきりしきぬれ時時はしき  
 明もつりもおぼしめしきしき  
 一人をきりしきぬれ時時はしき  
 一人をきりしきぬれ時時はしき  
 一人をきりしきぬれ時時はしき

竹久たたりろーといれほーせよと  
 うろろを事りもくふーとおほーせ  
 とし美きうひく事りのがよよしくしうけ  
 やう人をこのみうーいれをせとありあま  
 やう人の善悪はあうろくはうやがもの  
 多歎なともあうふ人しよの事りよなれ  
 して地物乃善惡はえしうたれ佛と  
 神との境界を智とをとの一とい目をあ  
 きを蓋をかふけし胸乃うらの志  
 事ハまうらにありまう事りくまうよ  
 ねのね人のうーあーをせうかくれ

あまのよやにの目のなるお十乃れれ  
 さとさうらうかくれまうけくま  
 子とり人の尸きるはた右乃人れ  
 と尸としまうあーたももしめら  
 う天下乃人のああーにりうま  
 しとやうゆなけし物乃うーあーは  
 さす名参にう事りく世のまうらあ  
 死事りもううらうまうしあーく  
 としあまし物乃よまれ智とま  
 ぬ物うー唐國乃文し我心は目  
 し燈としうまあまう死事り



ゆるかりをきく思を白くしなりゆるり  
 蠅と山虫の塗物かまにまを志はるはけ  
 志るたよにはまをうくちけゆる  
 にたをきりゆる考國よしさしりもめ  
 たりし減まとも侍門をて因公思と  
 いりしを聖人のうりて國をねさあけ  
 一をあしを身乃二人ありて徳言せり  
 けしに侍門まに思しりてま  
 まけらまをて時ぬ風あし世中さ  
 一しりしま木さかま志ほみ秋乃田村実  
 し換せしり因公且減王乃父武王乃奈に

かりしとりの新書を抄の中より求めおさ  
 きて是程忠ある人なるりりてやうり  
 かくされて後養志する身二人をも誅き  
 まりて世はめりたくゆる。源氏の太  
 将乃徳母の悪后悪大臣かまのそねりて  
 へあつたれあひし時雨風やまの世さ  
 かくてあかくされし事は此因公且乃  
 例を養もさかまうすかまうすさしり  
 女れさくくと受持まきあしめりたよた  
 一より延喜の帝も時平乃大臣の徳養  
 より水野の侍もかまうし事也。

倉乃右大臣乃時は梶原景時が遷るまで  
あまの人の代りて侍とや。さうしてこそ  
後より景時もあさましき死をして侍の人の  
乃あはれ事をも侍も侍も侍も侍も侍も  
るや。人こそあまの侍も侍も侍も侍も侍も  
よふ侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
なれと。ききふのひらふ侍も侍も侍も侍も侍も  
らこそ侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
れ侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
乃たふして公神乃侍も侍も侍も侍も侍も

なれは侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
乃事やうして侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
は侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
な侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
な侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
乃侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
一官位も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
の侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
習く侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
い侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も  
いたひ侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も侍も

馬の心裁も一めてし地あせせむと我いああ  
 いまの心裁も一めてし地あせせむと我いああ  
 損一ゆかまひいふくその馬もあつていふ  
 世の末もあつていふくその馬もあつていふ  
 はあつていふくその馬もあつていふ  
 人を産むていふくその馬もあつていふ  
 浅深厚薄に依りていふくその馬もあつていふ  
 是くゆく。是くゆく。人の心もあつていふ  
 にさかちる。事乃世乃すあつていふ  
 には。世乃。心もあつていふ  
 あやまき程の事は。あつていふ

は尸にみます。よを。あつていふ  
 やすく。この。心もあつていふ  
 是れあつていふ。心もあつていふ  
 また。心もあつていふ  
 いふ。心もあつていふ  
 とい。心もあつていふ  
 うは。心もあつていふ  
 是れ。心もあつていふ  
 て。心もあつていふ  
 とい。心もあつていふ  
 とい。心もあつていふ

うを報きむと。浦人。浦人は。て  
 まう。たをあれ。と。う。に。も。あ  
 き。が。あ。す。思。を。報。き。ら。る。と。は。さ。う  
 に。思。ん。ん。と。し。愛。し。を。み。ふ。か。く。し。う。  
 さ。う。う。韓。信。も。一。度。乃。り。て。な。し。と。む。  
 ひ。う。し。や。こ。う。く。ま。さ。浦。人。乃。ん。こ。う。ま。  
 誠。よ。を。難。ま。た。り。ま。う。浦。信。く。ま。さ。一。飯。  
 意。が。あ。く。す。び。く。ふ。さ。つ。ふ。事。は。こ。う。か。  
 此。乃。や。は。我。身。乃。か。り。ま。お。は。ま。を。  
 す。う。あ。す。う。し。う。お。の。も。や。ま。お。れ。を。  
 や。う。あ。く。る。日。た。り。あ。る。こ。う。あ。り。と。し。に

とい。つ。ら。ね。事。い。と。ん。う。ま。わ。さ。ら。も。と  
 ち。り。ん。し。つ。り。ま。お。れ。ま。る。人。な。ま。は。さ。ら  
 事。あ。る。ま。し。つ。れ。ま。人。し。ま。し。ま。し。う。ね  
 や。う。の。よ。の。像。よ。い。み。く。ま。あ。お。ま。い。や。う。て  
 始。ん。れ。ら。り。き。う。う。事。う。し。つ。ら。や。虞  
 舜。を。始。ハ。民。う。て。ま。う。の。傳。門。乃。位。よ。つ。ま。  
 て。ほ。し。た。く。も。た。民。乃。ん。を。失。た。り。世。を  
 し。め。く。ん。人。を。し。ま。う。ま。や。ま。れ。と。し。あ。や  
 う。ま。を。忘。れ。ぬ。と。ま。う。の。傳。道。當。時。乃。人。は。  
 や。う。し。を。こ。ま。ん。地。つ。ら。う。か。ん。次。く。し。  
 ま。じ。あ。く。れ。ほ。い。ま。大。方。者。國。よ。し。大。臣

公卿下らざるを以てその位よあるは福乃あ  
 れはよのほをまをく物思ふとたふ事  
 かなしとを思ふもまことのほ必ねるとし根  
 よりも枝葉はらたたるゆい常めんわろは  
 に月結れいもましくしてよ下乃まをる事  
 ましき事やわらうもりたよ事ゆき  
 とまららしあはる事はこれらにほゆる  
 又もろく乃道をまよくあはるめ路なきあり  
 男はいほし警古戈学あしじ人僧をい  
 まかひまを清浄とし強まけたるとか  
 じ人まのほの詩歌後法よけるまをし

君乃堪能なるむ人はまをらにめく  
 世よやうくしう人は警古をいみかまゆ  
 ろ乃道まねる事よしほまらにせも人の  
 けいあしはまをるまをいかに  
 ろをるころあまはわきまをくゆれと  
 君乃文五經三史なまをいかに  
 聖人まのれをたれる物よはまの人の  
 うしあしをまをるまをいかに  
 けいあしをいかにまをるまをいかに  
 まんまの人のためまをるまをいかに  
 まんまの人のためまをるまをいかに

聖人を尸て是は歎またたは麒麟をもよ  
 たると鳳凰乃とてすして世にあはす  
 乃かて今はさる人しあはさる人しあはく  
 こもやた尸てむむる。堯舜は禹殷湯  
 文王武王周公且孔子なるとわほはまき  
 ま聖人とせしむる一人しあはたる事なけ  
 る。あはさるるをさるるをさるるにあはす  
 我國は聖徳太子大師きらなるとやさる  
 一のしむる聖人もも福の人はあはさるる事  
 乃て天地とんらとをひとくく。日月は徳を  
 あはさるる福の事なればとてくく。及んば

たり為常曲とまら賢人君子の分際をさる  
 上も人とははさるるあはさるるに今はまき  
 又も。無念とてさるる賢人かとの位はる  
 程乃人は更に我身とつる物をさるる事  
 あはさるるに似て人に國乃とまに心をく  
 たよをのきをさるる人を助るなり。又さる  
 しあはさるるにあはさるる事なるとさる  
 もさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
 事もあはさるるさるるさるる道理とつる事  
 ひとらさるるさるるの倫類なきをさるる  
 しあはさるるさるる人をさるるさるるさるる

いづれかとも。志をあるぬ親とらやま  
ひ。兄弟乃みらくとたぐも。朋友の親  
とみく。似もさ。然らる。ひあ。ま。成  
ま。く。忠。つる。もの。成。貴。一。種。も。その。と。罪  
も。う。し。と。乳。その。か。際。よ。た。ぬ。も。し。ま。く。名。利  
を。この。ま。も。財。宝。を。と。り。も。す。り。も。り。四  
乃。ま。く。は。賢。人。君。子。之。金。玉。乃。類。を。致。す  
な。し。か。う。か。う。む。人。は。賢。者。と。し。君。子。と  
い。ま。れ。ゆ。ま。き。ま。や。それ。程。乃。事。し。今。此  
世。は。否。く。あ。る。や。い。た。り。た。る。よ。あ。つ。の  
乃。人。の。ち。と。佛。律。を。し。心。け。國。を。し。民。を。し

助けらの。我身を。わよとせす。賄賂ある  
然ん。は。妙。あ。り。す。ま。り。の。乃。も。道。程。を。い。ふ  
も。を。ら。よ。し。し。私。の。か。う。む。じ。う。今。乃。世  
ま。は。否。く。よ。親。人。と。し。よ。く。ま。大。方。之。自。皇。乃  
代。よ。も。極。ま。り。ま。人。と。り。は。中。古。は。よ。ま。人  
ふ。ち。わ。中。古。よ。り。わ。ま。人。と。り。は。末。乃。世。に  
は。ま。し。よ。ま。人。よ。し。あ。る。人。と。し。ま。産。ま。の。ま。よ  
し。み。く。ま。わ。か。う。に。の。ま。か。り。格。は。は。は。乃。人。の。い。ら  
ふ。ち。あ。り。ゆ。む。む。と。あ。ほ。く。信。道。を。し。政。よ。く  
て。國。乃。あ。る。時。は。ま。し。す。く。て。む。う。し。ま。も。  
ま。ち。あ。る。事。乃。の。あ。る。人。ま。く。五。百。年。に

一、臣、聖人はお侍りも、や、戸、勤、え、お、は  
 且、時、よ、あ、ひ、侍、り、も、中、さ、う、そ、ん、ら、ま、じ、り、  
 當、い、み、し、し、右、大、和、乃、事、を、知、り、  
 人、も、う、れ、さ、り、わ、り、て、ん、乃、う、事、は、あ、ら、ま、  
 し、ま、ち、あ、の、ま、も、い、な、ら、も、あ、ら、ぬ、人、と、し、  
 あ、り、と、し、ま、の、侍、り、る、理、を、志、り、た、り、  
 む、う、学、文、を、し、り、と、し、し、つ、り、ま、り、学、あ、り、  
 と、し、る、理、を、し、り、と、し、た、り、む、ら、あ、ら、む、人、を、  
 の、学、文、を、ぬ、人、と、し、し、り、と、し、り、孔子、志、侍、り、  
 是、ら、れ、小、条、時、改、り、九、代、た、も、ち、き、る、事、  
 と、し、す、り、て、も、学、乃、す、れ、き、る、事、は、な、り、

し、り、や、り、侍、り、に、真、觀、政、要、序、式、條、を、  
 つ、お、物、も、う、り、を、そ、ん、ら、て、私、あ、ら、も、ら、あ、ひ、侍、り、  
 程、を、す、り、て、世、を、し、り、と、し、る、理、を、志、り、  
 侍、り、し、り、侍、り、なる、家、乃、中、を、お、り、め、侍、り、  
 じ、り、た、ぬ、を、そ、ん、ら、や、す、り、と、し、り、し、り、日本、  
 國、乃、事、を、し、り、し、り、侍、り、し、り、程、乃、事、は、ま、  
 じ、り、た、ぬ、人、乃、事、を、し、り、も、し、り、擧、げ、る、人、と、し、り、を、  
 志、り、し、り、し、り、し、り、し、り、事、を、し、り、し、り、し、り、  
 あ、ら、ま、じ、り、し、り、し、り、あ、ら、ま、じ、り、た、ぬ、人、は、  
 む、ら、ぬ、人、乃、事、を、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 む、ら、ぬ、人、乃、事、を、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 む、ら、ぬ、人、乃、事、を、し、り、し、り、し、り、し、り、  
 む、ら、ぬ、人、乃、事、を、し、り、し、り、し、り、し、り、



しりしたる事しりしゆらへ業をたせられ  
 こと常に身おしむる毒をあまされども  
 好くは痛をあたふしりしりかへる帝は  
 うき諫言を因てふ人のをあるは貴族  
 ありしはちあつてけしらの人はいふしよ  
 事なれども我らたうふ事をははらる  
 しとらうらま事なれども家らよかあり  
 事をはらうしりはる人かやうなむむ  
 めもはたつらんにせしりふとあれ  
 ますて回乃たれしあきりしあふん  
 誠よ私かむむ人の君の序らけしり

ゆへに心かたつてむむしりあやう  
 せり事なれとかなつてんまらる人  
 うらんとまむしりしり人たらのむむ  
 物もむむしりしりしりしりしり  
 かなむむしりしりしりしりしりしり  
 せりしりしりしりしりしりしりしり  
 事なれどもあきりしりしりしりしり  
 天下の政をはあきりしりしりしり  
 ねくのしりしりしりしりしりしり  
 うらむむしりしりしりしりしりしり



元はほくゆい。今もまことたうしうしん人  
 のあしんは。世をいふらうらあふしん  
 たり。又男女の仲りあふ事しん。先  
 源氏にこそういりゆれ。今又しんをま  
 のね事。五教乃志あはる。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん人。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん

元はほくゆい。今もまことたうしん人  
 のあしんは。世をいふらうらあふしん  
 たり。又男女の仲りあふ事しん。先  
 源氏にこそういりゆれ。今又しんをま  
 のね事。五教乃志あはる。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん  
 一。ぢれしんれ。あまうしん。あまうしん  
 うしん。あまうしん。あまうしん。あまうしん

一揆なりしをいふなりけり。わたりて君子  
 は比喩に似たり。ふりて人は黨をたはむ事  
 あり。まじき人。各國にも。必し。まじき人。たはむ  
 時より。半の血。かゝる。もの。に。いふ。に。や。こ  
 皇五帝などの世に。いふ。事。し。あ。り。し  
 こと。まじき。人。の。まじき。人。の。まじき。人。  
 の。まじき。人。の。まじき。人。の。まじき。人。  
 人。を。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。  
 を。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。  
 ま。は。い。ふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。

も。まじき。合戦。の。時。の。つ。ま。に。あ。れ。は。今  
 し。まじき。の。時。は。一。ま。じき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま  
 事。く。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。  
 は。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。  
 ま。は。い。ふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。  
 人。乃。國。を。い。ふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。に。いふ。こと。  
 不。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。  
 是。れ。は。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。  
 此。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。  
 不。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。  
 不。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。事。く。まじき。の。時。に。あ。り。ぬ。へ。ま。

あまのきんけりともやのまうにはいれし  
たそも国えぬものをしはるる小ね乃ねあ  
に思のこさねぬしくもあつよのたの  
かあうなる国よれよめりいりまはけけり  
りわ

人ふあふる詞

同

君乃老ふはく貴冑とのめり長の後るい  
忠考とをともむをたりさねくき跡をり  
け厚為よし終り福福門をきき相あよ  
ありといり身祈髪膚と父母よりけり

のみ常乃道とらうとけんさかを人乃ん  
同くもききくわのあれあし一とら  
し浮世を思ひもく心持よゆりて  
世と菩提ともくたこのきい億劫乃ま  
死を形級してなく二途の業園と海  
ぬきゆりてもるそ満よ第一よのり  
まこけりあまきつ終もなげ紅雲  
まーりし身もききく名とわめし  
おもく終りそのけりしとあつさき  
君は父子乃道とをきき流り才名格  
趣と妹として官祿乃運と初も

古より家風をうけく其衰乃業とく  
 られを徳代と傳く官相登用は一乃  
 乃あり次小才名といふも其後あり我  
 物ありわたり風月經史ありさうり合  
 減小物家乃要樞を多く一培勸といふ  
 乃暑天よあをを乃こひ寒くも霜とさ  
 ぞくたくひ又抽黄よたきりあく乃こ  
 やくうまく乃一主乃乃明く此物  
 物をいへ乃乃小はまくとあつ四賊  
 此黄を乃つきさうん先人あつてい合を  
 ちうどのきとあつていなりこのきと去

ちう恨へま人を明し命をとまて恨へ  
 らし事をもたしし又其とあ乃の生涯を  
 案立したとくも乃乃乃をこそれ  
 事小はまくと物要にありと計器  
 とりくもとくも也能活妻近乃きくい年  
 かより其道り携くなくも業成りし  
 ぶいけるあくと明く家くる乃藝徳  
 いよくさうりあつて物延乃終業を減よ  
 とくくくくくもあ終とみるも事乃福  
 代あいつは一人乃事なる人又徳  
 のととくく一産をなつて乃以









不忠も不忠よ有り。身も不仕よ有り  
 有り。さねくしとて。又あまきく笑きうして  
 守ふまきとそて。内外よ奔。彼よねも。  
 庶ん抑さまう。何ん人。の道よ。え失とあ  
 誰ん。あふん。さねく。めま。人。えん。の依  
 けり。り。知。の。何。の。ま。え。に。其。益。あり。何  
 きた。あま。人。多。根。便。あ。く。後。あり。何  
 後。何。の。新。あ。て。結。存。り。い。急。用。と。い。ひ。い。か  
 う。し。又。何。の。り。よ。付。て。も。群。よ。撥。ん。也  
 思。ん。さ。し。と。え。と。さ。思。く。お。越。不。能。り  
 流。さ。く。も。人。の。一。日。え。ん。事。と。い。ひ。三。日。等

とくも。と。そ。て。十。日。を。身。を。事。と。い。北。日。を。身  
 や。思。く。し。と。え。と。さ。思。く。お。越。不。能。り  
 君。り。け。く。勤。学。の。為。め。を。れ。も。じ。い。い  
 必。人。の。と。と。を。あ。と。い。き。何。の。又。何。ん。て  
 傍。撃。の。あ。ま。に。習。練。と。い。く。も。人。の  
 不。忠。不。仕。を。終。と。も。と。科。も。何。あ。と  
 思。ゆ。か。ひ。く。奉。と。し。る。何。の。物。い。あ。く  
 身。と。ま。い。く。と。あ。黄。冠。の。た。を。と。い。思。け  
 あ。さ。う。う。た。う。さ。ば。あ。る。り。さ。ね。く。お。ま。く  
 何。り。て。長。た。う。さ。し。じ。や。傍。人。の。不。義。と  
 と。て。い。証。も。と。恐。不。仕。治。み。く。い。証。悟。勤

のんびりもじりもさうだんふれいよき  
 ぶれいよきあきいあまにつきて等偏の  
 を退我身とすじあかっきりやな  
 ぶしりりやうお心得て君よはれん  
 人よ三年の勤勞家柄十年月  
 何とも知し一日の法も知も毎年法切  
 おもくも知しあまきん君父のためは  
 ともくも知しあまきん君父のためは  
 かくれあまきん不化志念仏念法ん一生  
 願燃と拂とも道よこえ志るしあま  
 宣ん此種ふん一夢十夢よこえ志るしあま

里法小是ぬきん世方の法も又あま  
 ともくも知しあまきん君父のためは  
 て君よ三年の勤勞家柄十年月  
 老の皆幼少あまきん君父のためは  
 家のみる家國家也あまきん君父のためは  
 きたれんともくも知しあまきん君父のためは  
 じん情くこめて主職よ存く道よ  
 國統のまもるもくも知しあまきん君父のためは  
 けあまきん君父のためは  
 へん一家と我物よ思く人よこえ志る

へうふあふ紀事にあき事也我答  
 家言名と思ひしはむいも人の法  
 うささる事いも人乃事る取  
 とらふてふら法或人のものゆき  
 とふら法ら物とさくして誠乃忠臣  
 めんあふも我つささむじとい文  
 もといくもあ人のまじしはては失  
 と補て家もおさふんと思ふ一  
 補てとたふく知るく後  
 して身とおさめ忠とさ記して不  
 藝而他事いぬんとさふりあに立

方此計略あふあふも高実人才能藝  
 能も皆いふ法事也。も身不義片事  
 才學いよく悪因とたふ。も人ゆくと  
 あれり。不藝とさしてさる。不  
 一ふのあ乃法は。一ふ乃あ乃不  
 作いあ。とく付。も何そ前業此  
 不感人。さ跡りり。是跡の緒若一  
 りよあ。さう。や。古人格勸乃法と  
 守く。白。第一。も人情心。さあ。て。忠  
 と存も。さ。身。二。も不藝。一。筭。策。と  
 うけて。さ。独。群。一。抜。さ。若。弟。と。也。登

取修勅おこしつゝ次勅厚く書よ授くる  
 者第四よ之字風月雜藝よ其つゝ我  
 志第又よ傍人よとて好まふ人よあれ  
 じ者第六よ物い場く飢寒よ志のく  
 者よと是よ六正よふまゝく侍人よ又  
 云第一よ忠あくして愚よれそびま  
 第二よその事よ志つゝして世よ  
 じ志第三より忘量ふ堪あして皆偏よ  
 いじ者第四よ情忠れんあくして抱よ  
 うつあん情急ふる者第又小不潔あて  
 善長よと本せし。睡眠よとあのじ者よと

うね成六取り明とらへ侍人よと  
 之頃年よりこころよ世れ風俗よみ  
 小政れ紳禮儀乃らるる乃らるる  
 上一人より下若民よあつて。あつて  
 而れれせんとく侍明よあまふあ  
 ちあつて親世あるあつてあつた時電  
 乃必抱たるあつてと志あつてあつて  
 の家庶志を退取志え。あつてあつて  
 きゆるしや。あつてあつてあつて  
 式よしてあつてあつてあつてあつて  
 又よのて推考る。あつてあつてあつて

祖乃喬治成... 身とわらわが  
 一侍り成りお別れま... たりて才  
 多し言まじる魚... 身り官位と  
 帯一明り... 人あく適世と表して  
 とこりり小名... 利とえ... 唱  
 律乃伴信人... 倉小信衣と表し  
 たり... 奥食を宗とし... 女犯  
 とさ... 或三度乃物成奪取  
 妻と... 又律乃比丘尼教丈教  
 子と對... 子とみるよ... 於政射  
 侍と... 乃... 福ふ... 蛇

あ... ね執物ね乃... ねり...  
 人い... 事... 事...  
 貴... 群臣忠...  
 一... 天下... 乃...  
 とも

菟玖波集序

同

大和... の葉は... 天地...  
 子早振... 神代... 乃...  
 志... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃...

長短施願混本つらまへくひのよきとくまの  
うらたふく葉た花文とあつたひおりのしを  
むすふとくはくし事なる一柱かき連  
あつはくひのきりきりくひくひの  
わくま身一のつらまへくひの日本武尊を  
夷つてくれとやうにまへくひくひに  
しきふくまをわくし中納言家持を  
ふか川の水はゆきぬとてか會業平朝臣に  
わくはくの国へ情とくま天唐の御門を  
藤野内侍とみくひのきりくひのわく野天神のわ  
田の所戸をわくしわくまをわくまをわくま

くひくひのくひのくひのくひのくひのくひの  
まへくひのくひのくひのくひのくひのくひの  
よくまをわくまをわくまをわくまをわくまを  
ら。月をまへくひのくひのくひのくひのくひの  
しりくひのくひのくひのくひのくひのくひの  
あつたふくまをわくまをわくまをわくまをわくまを  
み君とくひの神とくひの佛とくひの  
まへくひのくひのくひのくひのくひのくひの  
あつたふくまをわくまをわくまをわくまをわくまを  
わくまをわくまをわくまをわくまをわくまを  
わくまをわくまをわくまをわくまをわくまを

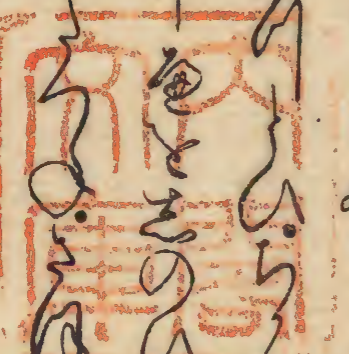






Handwritten text in cursive style, likely a letter or document, covering the right page.

Handwritten text in cursive style, likely a letter or document, covering the left page.



扶桑拾遺集卷第十四下終

結業於癸卯年十月十日

丁酉

Handwritten text in a cursive script, likely a ledger or account book, containing several lines of entries.

